



学級のチームワークを 高めるコツ

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

十二月。すでに年度の折り返し地点も過ぎましたが、学級経営は順調に進んでいますか。これから学年末に向けて仕上げの時期に入りますね。そこで今回は、「学級のチームワークを高めるには？」というテーマを取り上げてみました。ここで言う「チームワーク」とは、学級としての一体感や団結力を指しますが、それらを高めていくためにはどんなことが大切なのでしょう。

○まずは学級内の人間関係をつかむ

小学生の場合特にそうですが、自ら学ぶ姿勢はまだ弱く、まわりの環境に支配されがちです。したがって、まとまりがあつて意欲的な学級集団に属しているかどうか、その後の成長に大きく影響します。学級としての一体感・団結力は、心の育みや学力向上につながる大事な要素

件と言ってよいでしょう。助け合ったり許し合ったりして、誰もが「楽しくて仕方がない。みんなと一緒に活動できて幸せだ」と思えるような学級にしたいものです。

そのためには、日ごろの子どもたちの友人関係の把握に努めなければなりません。一部の子が学級を生耳っていないか。友達の言いなりになっている子はいないか。人をバカにしたような言動はないか。男女の仲はどうか、など。こうした観点は無数にあるでしょう。

○「好きな者同士」はだめ

教師の取り組みとして、グループを決める際、「好きな者同士」を許容してはいないでしょうか。これをすると、嫌いな子を排除するようになる恐れがあります。また、自己中心性を助長してしまいます。さらに、いつも決まった子が残りがちになり、その子の自信喪失につながりかねません。担任が、できるだけ学級全体のまとまりを視野に入れて決めることが大切です。このことは、席替え・遠足などの行事・当番活動など、多くの場面で言えますね。

係活動などではまた違った観点で決めているかなければなりません。それは、言うまでもなく、一人ひとりの意思を特に尊重するということです。ただしこの場

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のホームページ」でブログを執筆中。

合でも、自分が本当にやりたい係を希望しているか、「仲良しのAさんがいるから自分も入る」といった傾向はないか、注意深く見取る必要があります。

○場合によって、柔軟な対応を

先に述べたことはあくまで基本的な方法であり、例外はいくらでもあると考えたいと思います。別の言い方をすれば、柔軟性をもって臨むことが大切なのです。

例えば授業中、グループで活動したり話し合ったりするとき、いつも「担任が決めた班で」というように固定化する必要はないでしょう。目的や観点が明確であれば、「今は誰と話してもいいよ。話し合いたい子のところへ行つてごらん」といった対応も取り入れるようにします。この場合、そうしたほうがより多くのいろいろな考えを聞くことができ、価値ある話し合いになるのではないかと思います。同時に、日ごろの仲間関係をあらかじめ把握することもできます。ただし、これは「例外」であることをはっきりさせるために、「今は」と断っておきましょう。

○子どもの言動をしっかりとほめよう

次に、こうした教師の意図を子どもた

ちに感じ取らせる言葉かけが大切になります。そのためには、どうしたらよいでしょうか。学級には、教師の意図を自然と理解し、実践している子どもがいるでしょう。そうした子どもの言動を大いに認め、ほめるようにします。また、実践しようとしているけれどできていない場合には、その言動を受容する言葉かけをするように心がけます。

例えば、日ごろあまり親しい間柄とも思えないにもかかわらず、BさんがCさんをかばったとします。そうしたら、「仲がいい人の味方をするんじゃないかと、自分で判断して正しいと思う人の味方をするのができたね。これは公平な態度なので、先生はうれい」とほめてあげたいものです。他にも、「係を決めるとき、仲のいい人と同じ係になろうとした人もいると思うけれど、Dさんは自分が本当にやりたい係になったんだね。係の内容で決められたのはすばらしい」、「Eさんは下級生のお世話が大好きなんだね。お世話をする事で、下級生の成長を自分のことのように喜べるなんて、すてきだね」などなど。

そうです。これまで述べてきたような組織づくりのやり方を取り入れるだけでなく、子どものちょっとした言動を見取り、称賛したり共感・感動したりすることが大切なのです。また、できていなくても努力していれば、その努力を認める

態度を示すようにします。その際、学級の一体感や団結力を養うという広い視点をもつことが重要です。学級目標と関連づけられれば、さらによいですね。

○目指す学級像は…

最後に、目指す姿の一例ですが、「すごい。みんなはもう誰と組んでも、誰と一緒に活動しても、それを喜びとすることができる。『あの人じゃなきゃいや』、『この人と組みたい』。そんなことは思ってもいないようだね」。そんな言い方をしてほめることができるようにしたいのです。

一月からは、卒業式や、進級に向けて期待をもてるような行事が目白押しです。学級全体でよい方向に向かう気運が高まれば、どれもとても思い出深く、感動的な行事になることでしょう。

